

愛媛医学会賞に

坂元氏(愛媛大大学院)

奨励賞は4人

県医師会員らでつくる愛媛医学会(村上博会長)はこのほど、医学や地域医療向上に貢献した医師に贈る第28回愛媛医学会賞に、愛媛大大学院医学系研究科の坂元克考助教(40)を選んだ。若手医師を対象とする

愛媛医学会奨励賞には4人を選出した。

賞は医学会が毎年選定。

2019年に国内外の医学誌に掲載された論文の著者を対象とし、選考委員会で審査した。

坂元氏は県内にも患者が多い肝細胞がんについて、肝臓を包むような膜にまでがんが浸潤した場合、手術後の再発が多いことを指摘。このような症例には手

術後の厳密な経過観察や補助化学療法が必要なことを示唆した点が評価された。

愛媛医学会奨励賞は県立中央病院循環器内科の小崎哲也副院長(40)、済生会松山病院内科の清水嵩之医長(36)、県立新居浜病院小児科の田代良医長(40)、愛媛大大学院医学系研究科の田村圭助教(37)が受賞した。

小崎氏は重症の大動脈弁狭窄(きょうさく)症患者に対する経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)に關して、カテーテルのルートと置換弁の選択を工夫することで、リスクの高い高齢患者にも良好な結果を得た症例について報告。清水氏は糖尿病患者の高齢化が進む中、高血糖、低血糖ともに自覚症状が乏しいことから、SMBG(自己血糖測定)を行うことの重要性を示した。

田代氏は愛南町の小中学生の新生全員に心臓超音波検査を行って冠動脈奇形などの発見につなげ、心臓突然死を予防する「あいなハートプロジェクト」の有用性を証明。田村氏は硬化型肝細胞がんの症例で、ブドウ糖に似た構造の薬剤を使うFDG-PET検査が他のタイプのがんとの鑑別に役立ったとした。

(増田有梨)



坂元 克考氏



小崎 哲也氏



清水 嵩之氏



田代 良氏



田村 圭氏